

2018年2月25日

福音書からのメッセージ

イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペトロを叱って言われた。「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている。」

(マルコによる福音書 8 章 33 節)

今日の福音書では、イエス様の弟子の中でリーダー格であったペトロがイエス様に叱られる場面が読まれました。なぜペトロは叱られたのでしょうか。それは次のようなイエス様の言葉を遮り、脇に連れ出し、いさめたからです。

「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日の後に復活することになっている」。そのイエス様の言葉は、弟子たちにとって衝撃的なものだったことでしょう。イエス様はここで、ご自分が殺されることを語られたのです。そしてこれは神さまのご計画であることも、はっきりと伝えられました。

その神さまの意志を、ペトロは否定しました。一番弟子でありながらも、神さまのご計画に対し、首を横に振ってしまう。そのようなペトロの姿がここにはあります。それとは対照的に、今週の旧約聖書（創世記 22 章 1～14 節）には、愛する息子イサクを神さまの命令通りにいけにえとしてささげようとするアブラハムの物語がありました。神さまはアブラハムを試され、アブラハムは神さまに従いました。

このアブラハムの信仰と、神さまのみ心を否定しようとするペトロの姿。わたしたちは今日の箇所を、ペトロのようにではなくアブラハムのように、自分の一番大切なものも惜しまずささげる強い信仰を持ちなさいと読み取るかもしれません。

しかしわたしたちは、アブラハムのようになれない自分のことをよく知っていま



す。ペトロのように、神さまのみ心を否定してしまおう、そんな弱い部分を多く持っているのが、わたしたちなのではないでしょうか。

「全能の神よ、

わたしたちは自らを助ける力のないことをあなたは知っておられます」。これは大斎節第 2 主日の特祷の最初の部分です。わたしたちが自分の力だけでアブラハムのような力強い信仰を持てたならば、それでよかったです。イエス様がわたしたちのところに来る必要もなかったかもしれません。しかし神さまは、わたしたちが自分の力で救いの道にたどり着けないのをご存じです。だからイエス様を遣わし、わたしたちを招かれたのです。

わたしたちは、アブラハムではありません。ペトロに代表される、弱い、弱い、一人ひとりです。でもイエス様は、決してわたしたちを見捨てず、導いてくださる。自分自身を自分の力で生かすことのできないわたしたちを、良き方向へ招いてくださる。その道が、十字架の道なのです。

わたしたちに命を与えるために、イエス様は歩んでくださいます。その歩みを心に留めながら、わたしたちも、神さまに心を向けていきたいと思えます。神さまはわたしたちを愛してください。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>